

2. 地域包括支援センターブランチ及び地域 福祉コーディネート業務の公募結果について



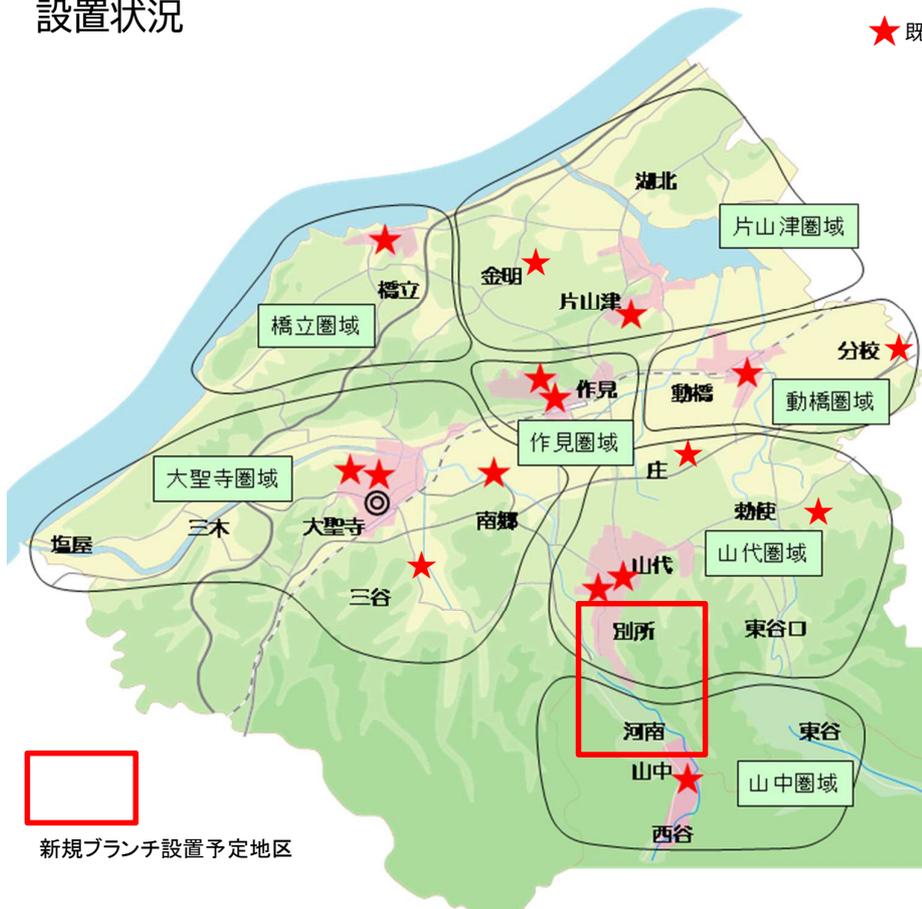
加賀市市民健康部介護福祉課

令和6年12月5日

地区高齢者こころまちセンター（16か所） 設置状況

R6年4月現在

★ 既存ランチ設置箇所



| |
|---------------------------|
| 大聖寺なでしこの家 |
| 小規模多機能ホームきょうまち |
| グループホームまどい |
| 小規模多機能ホームなんごうえがお |
| 山代すみれの家 |
| ニーズ対応型小規模多機能ホーム ききょうが丘 |
| 小規模多機能ホームいらっせ庄 |
| 小規模特別養護老人ホームちよくし |
| 富士見通りお茶の間さろん |
| 小規模多機能ホームいらっせ湖城 |
| 小規模多機能ホームはしたて |
| 小規模多機能ホームきんめい |
| 小規模多機能ハウスさくみ |
| 小規模多機能ホームいらっせ松が丘 |
| 動橋ひまわりの家 |
| 小規模多機能ホームいらっせ分校 |

新規ランチ設置予定地区

新規設置予定地区(河南・別所地区)の概況

1～4：令和6年7月1日現在
5～9：令和5年10月1日現在

| | 河南地区 | 別所地区 | 2地区計 | 加賀市 |
|-----------------|---------|--------|---------|----------|
| 1 総人口 | 3,696人 | 1,190人 | 4,886人 | 62,720人 |
| 2 65歳以上人口 | 1,312人 | 406人 | 1,718人 | 22,402人 |
| 3 75歳以上人口 | 819人 | 248人 | 1,067人 | 12,713人 |
| 4 高齢化率 | 35.5% | 34.1% | - | 35.7% |
| 5 世帯数 | 1,568世帯 | 625世帯 | 2,193世帯 | 28,154世帯 |
| 6 高齢者のみ世帯数 | 561世帯 | 162世帯 | 723世帯 | 10,333世帯 |
| 7 (内、単身世帯数) | (324世帯) | (92世帯) | (416世帯) | (6483世帯) |
| 8 要介護認定者数(在宅のみ) | 153人 | 37人 | 190人 | 2,332人 |
| 9 要介護認定率(在宅のみ) | 10.8% | 9.4% | - | 10.9% |
| R5相談受付件数(実) | 55件 | 10件 | 65件 | 1,038件 |

令和6年度 加賀市地域包括支援センターブランチ及び地域福祉コーディネーター業務委託法人公募

| 内容 | 日程 |
|---------------------------|----------------------|
| 公募通知案内 | 9月9日(月) |
| 質問受付 | 9月9日(月)～9月20日(金)まで |
| 応募書類の受付 | 9月13日(金)～10月11日(金)正午 |
| 選定会(書類・面接審査) | 10月下旬から11月初旬 |
| 選定結果内示 | 11月中旬 |
| 委託候補者の決定 | 11月中旬から下旬 |
| 地域包括支援センター運営協議会(高齢者分科会)報告 | 12月初旬 |
| 業務移行準備(連絡・勉強会) | 12月中※研修は別途 |
| 業務実施(契約等) | 令和7年1月1日～ |

応募がなかったため実施せず

【結果】 応募該当法人:4法人 応募事業所:なし

▶ 第9期介護保険事業計画期間内に、改めて公募予定。引き続き地域包括支援センター(市高齢者こころまちセンター)が相談窓口。

地域包括支援センターブランチの設置及び地域福祉コーディネーター業務内容

<参考>

①ブランチの主たる業務

○地域の身近な窓口として基幹型地域包括支援センター(直営)につなぐこと

【事業内容】 地区の高齢者の個別相談、支援、個別の地域ケア会議等

【機能】 24時間365日の対応、必要時の訪問、緊急宿泊対応可能

②地域福祉コーディネーター業務の主たる活動内容

○友人、ご近所、世話焼きさん、地域団体等の担い手とのコーディネートや個の支援をとおし地域づくりに繋げること

【事業内容】 地域資源の把握、開発、関係者間の情報共有、交流活動の開催支援

【機能】 高齢者と地域資源をマッチングするためのコーディネート機能

地域の地域福祉活動拠点等後方支援

<目指すべき姿>

①早めの出会いと身近で相談しやすい拠点

⇒地域で身近な相談体制やすぐに駆けつけられる体制

②どんな状態になっても地域で暮らし続けられる体制

⇒介護サービス利用有無にかかわらず「柔軟性」「緊急時対応」「訪問機能の充実」が必要

③地域での住民主体の生活支援の体制構築

⇒介護問題を地域住民が自身のこととしても捉えられるような、地域全体で支える仕組み、機会の創出(高齢者の社会参加できる人はたくさんいる)

◆地区はそれぞれ、住んでいる人の考えや風習、社会資源が異なる。その特徴を生かし、**住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるような地域**をつくることを目指す。